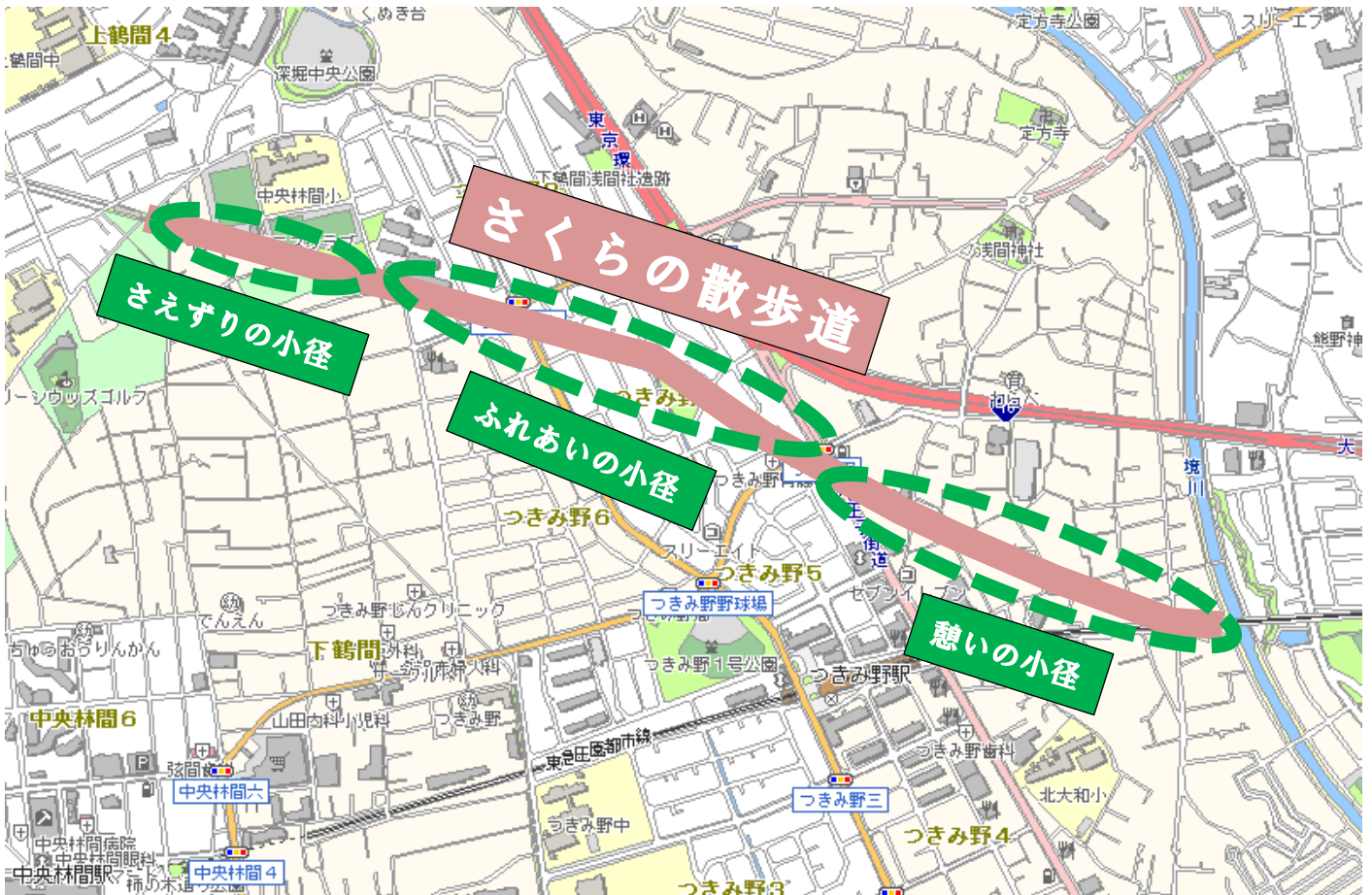


「大和の魅力アピール！」

第2回「さくらの散歩道」 投稿者：森 忠洲 氏（中央林間在住）

明治20年、横浜の水源を道志川（相模原市緑区を流れる一級河川）に求めた日本初の近代水道が完成し、水道管の埋設されたルートは「水道みち」と呼ばれ、人々に親しまれてきた。大和市部分は市北東部を通っていて、北は相模原市境から、南は境川までの1.7kmとなっている。大和市ではこの「水道みち」部分を公園に指定・整備して「さくらの散歩道」と名付けた。その名の通り、敷地内には多くの桜が植栽されており、地元の方々の日頃の手入れもあり、毎年見事な桜を見ることが出来る。



↑「さくらの散歩道」の所在地

さくらの散歩道は、北から「さえずりの小径」・「ふれあいの小径」・「憩いの小径」と名前がつけられており、それぞれの通りで特徴のある景観を造り出している。

「さくらの散歩道」桜の特徴

大和市で130本を数える桜が並木として植栽されているのは、南から「千本桜地区」と「国道467号（桜ヶ丘交差点起点）」、「旧I BM横通り」、そして「さくらの散歩道」である。前三者にはソメイヨシノが混じるが、「さくらの散歩道」では里桜を中心にしている、ソメイヨシノが一本もないことが特徴である。

「さくらの散歩道」に咲く主な桜

オモイガワ

市最北のさえずりの小径では、オモイガワ（思川）が植えられている。栃木県小山市の修道院に植えられていた桜で、その下に流れている「思川」の名に由来している。花びらは中輪で、6～10枚の半八重だが、「春爛漫の花の色」と称され、満開の時には、胸の内からほんわりと暖くなる花の色である。



カンザン

ふれあいの小径では、カンザン（関山）が散歩道全体でのクライマックスを演じる。最大花茎は5.5cmで、花弁は42～55枚と重なりが厚く、濃紅紫色の花を枝がたわむほどに付ける。

セキヤマとも言い、花の数や重ねの厚さ、花の色はこれ以上期待できない「関の山」であることを表している。

ショウゲツ

憩いの小径では、ショウゲツ（松月）が20数本植えられている。代表的な里桜の一つで、松月とは「いの一歩」を暗示している。その花は「誠に優美な、そして華麗な桜で多くの人々に愛されている。」と表現されている。樹形が傘を広げた様になるのが見分けるポイントになる。

